

令和6年度 狹山市立 御狩場小学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A：よくできている。(90%以上)
- B：概ねできている。(85%以上)
- C：あまりできていない。(70%以上)
- D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者(評議委員)から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・教職員同士が助け合い、一人任せにしない風土ができている。また、教職員が児童理解に努め、良好な関わり合いができるよう支援している。	・児童数の減少に伴い、教職員と子供たちだけで学校をきれいにしていくことに関し、今まで通りの対応は難しいのではないかと。子供たちも家庭で清掃する機会が少ないこともあると思うので、清掃ボランティアも学校と協力して、子供たちと触れ合いを大切にしながら、掃除の仕方と一緒に教えていきたい。
	2	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	3	児童は、学校生活が楽しいと感じている。	A	・児童数減少に伴い、清掃場所が手薄になりやすいため、できる範囲の清掃活動をしている。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	・施設劣化に伴うトイレや水漏れ等、気づいた段階で早期の対応を行っている。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
学習	6	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B	・落ち着いて学習に望むことができている。	・学力・学習状況調査の結果を受け、算数タイム(朝の時間)以外の学習支援の在り方を考えていきたい。算数タイム(朝の時間)についても、今までのやり方を行うのではなく、ボランティアの人員を生かし、時間・場所を有効活用して基礎学力の定着を図れる方法を模索していきたい。
	7	教師は、児童が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・教職員同士の日常の会話でも授業改善が話題になり、わかりやすく楽しい授業展開の意識は高まっている。	
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	B	・忘れ物(宿題含)をする児童が固定化し、基礎学力の定着も二極化が見られる。	
	9	児童は、話し合いを通して、自分の考えを伝えることができている。	B	・子供同士をがっつがる主体的な学びを推進し、学校だからこそできる学びを積極的に実施していきたい。	
	10	児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。	B		
規律ある態度	11	児童は、進んであいさつをしている。	B	・子供たちは、概ね約束事を守り、落ち着いた生活態度である。	・学校全体としては、子供たちが落ち着いて生活している様子がわかる。 ・地域の見守りの方への挨拶の声が高学年になるにつれ小さくなっている。 核家族が増え、年配の方への関わり方の経験不足とともに高学年の発達段階によるものも大きいのではないかと。また、SNSやゲーム等で子供たちが家庭でも休まらない状況により、「疲れている」状況も生まれていることも考えられる。SNS等の利用について家庭の協力を求めたい。
	12	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・挨拶等は教職員にはしっかりするが、教職員以外の人には、できない児童も少なくない。	
	13	児童は、時間を守って生活している。	A	・本校の強みである縦割り活動が定着し、高学年がお手本となっているため、低学年への良い伝統を引き継いでいる。	
	14	児童は、きまりを守って生活している。	A	・教職員がやさしい言葉と前向きな言葉を選び、子供たちに接するよう心がけていく。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	A	・自主的な朝マラソンだけでなく、業間休みにもマラソン・長縄、ドッジボール等様々な企画を催し、運動好きの児童が多い状況が作られている。反面、校庭に出たがらない児童が固定化されつつある。	・学校の教育活動で子供たちが思い切り活動したり、汗いっぱい運動したりする取り組みがなされている。
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	・健診後に医療機関を受診できず、虫歯治療が終わらない児童も数名いる。	
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・スクリレ等を活用し、積極的に学校の様子が伝わるように努めてきた。	・今まで学校は社会の歪みを一心に受けてきたが、抱えきれない状況になっている。そのため、地域の協力は必須である。まず、家庭に第一義的責任があるが、それを踏まえて地域で子供たち育てていきたい。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・学校応援団と連携を図り、支援の幅を広げている。	